



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル、愛南町出身のkikuさんが綴るふるさとエッセイ

## —あいなん音故地新—

## 「十人十色。」

人は完璧じゃないから、失敗もするし傷つけてしまったりもする。人はみんな同じじゃないから、ぶつかったり理解できんかったりする。すごく仲の良い、何十年来の友達であっても感じると思うことが全く同じわけじゃない。人はそれぞれ。やから面白い。やから世界が広がる。

保育園、小学校、中学校、高校、大学、社会。環境も変われば人も変わる。小学校の頃は仲が良かったのに、高校になったら挨拶するくらいの仲、っていう場合もあればその反対もある。小学校の時、話したことなかった友達が時を経て心友と呼べる存在になつたり、ね。

あたしは今、鍼灸の学校に通いよるけど、この2年半の中でさえそんな変化がある。学びの中で自分なりの考え方ややり方をみつけて、お互いに日々成長しとるんやと思う。ただ、「自分と違う考えの人=敵」という考えを持ってしまうと、自分の成長の妨げになつたり、自分の世界を小さくしてしまう。いろんな考えがあつていい。どっちが正しいとか間違いとかじゃなくて。そもそも考え方に正しいも間違いもないんやけど。

人の数だけ答えがある。認めあうこと、歩みよること、もっともっとできる人間になりたいな、と思う今日この頃。

(テノヒラkiku)

### あいなん物産探訪 その⑬

## 「コメ」

のぶよし  
石川信吉さん  
よしこ  
良子さん夫妻



稲刈りというと秋のイメージが強いが、愛南町ではお盆のぶよしの食卓に新米が並ぶ。菊川で農業を営む石川信吉さん良子さん夫妻も8月上旬、家族の帰省に合わせて稲刈りを行う予定だ。

農家の次男として生まれた石川さんは、結婚を機に夫婦二人で農業を始め、以来55年間、コメ以外にも果樹や野菜も作る専業農家を営んでいる。

石川さんが育てるコメは3種類。コシヒカリ、にこまる、そしてもち米。取材した7月中旬は、4月に苗を植えたコシヒカリに穂が実り、その重みで稲が垂れ下がり始めていた。収穫まではあと3週間ほどだという。収穫は大

阪から孫たちが帰ってきて毎年賑やかに行われる。

「美味しいお米ができるのは、水がいいからよ」良子さんがそう教えてくれた。菊川では20年ほど

前にパイプラインが整備され、山の谷間の新鮮な水が直接それぞれの田に運ばれている。真夏でも冷たい水が田を潤すからコメの甘みが増すのだという。

間もなく収穫。実りの夏がやってくる。



こちらから愛媛CATVの動画がご覧いただけます

